

<2021年度 オリンピック・ムーブメント事業>

JOCオリンピック教室

— 実施報告書 —

広島県 福山市立精華中学校

Olympic
Movement



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「オリンピック・ムーブメント事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その榮譽を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

- 目的： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、
オリンピック自身の様々な経験を通して
「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、
この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、
日常生活にも活かすことの出来るものであることを授業を通して学習してもらう。
- 事業名： JOCオリンピック教室
- 主催： 公益財団法人日本オリンピック委員会
- 後援： スポーツ庁
- 協力： 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対象： 中学2年生
- 講師： オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート） ※派遣オリンピックはJOCが選定
- 期間： 2021年4月～2022年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数： 80校程度
- 実施方法： クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1コマ目 運動の時間 / 50分

身体を動かしながら生徒との距離を縮め、
チームワーク、フェアプレー、
身体を動かすことの楽しさ等を感じてもらいます。



2コマ目 座学の時間 / 50分

競技者人生を振り返り、
自身が感じたオリンピックの価値を生徒に伝え、
オリンピックをより身近に感じてもらいます。



※学校の通常の授業時間に実施

※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1コマ目

運動の時間 / 50分

オリンピックの専門競技の技術指導(=スポーツ教室)ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶(5分)

準備体操(10分)

主運動(30分)

まとめ(5分)



自己紹介
学習内容の確認



準備体操



主運動
(作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る)



運動の時間のまとめ



2コマ目

座学の時間 / 50分

国際オリンピック委員会(IOC)が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、
あるいは実際にオリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると同時に、
生徒自身が自分ごととして捉え、今後活かせるような学習内容

挨拶・自己紹介(10分)

オリンピックの価値を伝える(10分)

グループワーク(20分)

まとめ(10分)



学習内容の確認



写真・映像等を使用した
自己紹介



オリンピック自身の経験に基づき「オリンピックの価値」等を伝える



個人またはグループワークで話し合った内容を発表



全体のまとめ
記念撮影(クラス写真)

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって変動する場合があります

●時間割について

- ・1クラスにつき、運動の時間+座学の時間の順に、2時間連続で実施します。
- ・1コマ目の運動の時間は体育館で、2コマ目の座学の時間は当該クラスの教室で行います。
- ・原則1クラスの場合は3-4時限目、2クラスの場合は3-6時限目、3クラスの場合は1-6時限目の調整となります。
- ・1日に実施できるクラス数は最大3クラスまでです。4クラス以上実施する場合は2日間以上での調整となります。
- ・同じ時間に複数クラスを実施することはできません。

■ **オリンピック** : 田中 琴乃 先生 (体操 / 新体操) 【出場オリンピック / 北京大会、ロンドン大会】

■ **期 日** : 2021年11月26日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年A、B組 / 運動の時間

○ 自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ 準備体操



- ・自己紹介の後、新体操はリボンやボール、フープ、クラブ、ロープ等の手具も使用して演技を行う競技と説明し、リボンを使用した演技を披露。オリンピックバリュエーションについて説明し、運動の時間では体を動かしながら、オリンピックバリュエーションを感じてもらいたいと伝え、準備運動に移る。
- ・準備運動として2人一組でのボール取りゲームを実施。掛け声に合わせて、掛け声と同じ体の部位に手を当て、「ボール」の掛け声の時のみ互いにボールを取り合う。ボールの掛け声ではなく、体の部位の掛け声でボールを取りに行く等のアレンジを加えながら数回実施。

○ 主運動 等



- ・主運動として、ポッチャを実施。班毎に分かれ、練習タイムを設けた後、全3回ゲームを行う。ポッチャはパラリンピック競技でもあり、老若男女、年齢を問わず楽しめる競技であり、以前97歳の人と対戦し、負けてしまったことがある。健常者も障がい者も、言葉が通じなくても皆で一緒にできるのがポッチャの素晴らしさであると話す。



- ・運動の時間を振り返り、投げる時に集中し、一生懸命取り組んだことや、仲間が投げる時にしっかり見ながら応援すること、お互いを尊重しながら、作戦会議をしたこと、ルールを守ってプレーしたことはオリンピックバリュエーションに当てはまる。実は日常生活の中にオリンピックバリュエーションが存在していることに気付いてもらえたら嬉しいと伝える。次の座学の時間では、競技生活の中で経験し、学んできたことがどのようにオリンピックバリュエーションに当てはまるのかを話し、その後クラスがより良くなるためには、何をすべきかを考えてもらいたいと予告し、授業終了。

■ **オリンピック** : 田中 琴乃 先生 (体操 / 新体操) 【出場オリンピック / 北京大会、ロンドン大会】

■ **期 日** : 2021年11月26日(金)

■ **ク ラ ス** : 2年A、B組 / 座学の時間

○自己紹介 ~ 授業の目的確認 ~ オリンピックの価値を伝える



・映像を使用して競技について説明。5歳時に母親の勧めで競技を始めたが、オリンピックの開会式をテレビで見たことがきっかけとなり、オリンピックに出場することが夢となった。親から競技を続けることを反対された時もあったが、夢に向かって一生懸命練習を続けたことで、新体操日本代表選手に選出された。日本代表チームでは練習だけでなく、メンバー選考のプレッシャーや厳しい合宿生活を乗り越えて、オリンピックに出場できたと話す。

○個人ワーク ~ グループワーク 等



発問 : より良いクラスになるために必要なことをオリンピックバリューに当てはめてみましょう。
 発表 : エクセレンス : 「ポジティブへの切り替え」「学校を楽しむ」「行事に積極的に取り組む」等
 フレンドシップ : 「明るく声掛けをする」「お互いを知り認め合うこと」「良い笑顔で接する」等
 リスペクト : 「相手の意見を尊重して話し合いをする」「クラス全員で関心を持つ」等



・これから先の人生で、苦しいことや辛いこと、面倒だと思えることがあるかもしれないが、コツコツと努力して乗り越えてほしい。しかし、自分一人で抱え込めなくなったら、周りの友達にサポートしてもらったり、人を頼ってほしい、頼り頼られる関係性を育ててほしいと話す。自分もいまだに何か辛いことや悩みごとがあった時、幼稚園の頃からの友達に電話する。他愛もない話をするだけでも少し気持ちが軽くなるし、遠く離れていても友情は続いていく。ぜひ家族や先生方、周りの人を大切にしながら成長してほしいと伝え、授業終了。

■ 集合写真

・2年A、B組



■ 記念品贈呈

・2年A、B組



■ 修了証贈呈

